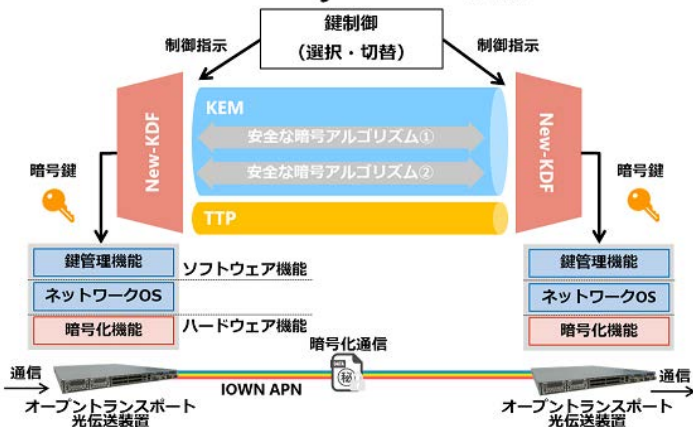


クリプトアジリティを考慮した暗号技術で大容量・低遅延の光伝送を高安全に実現します



Elastic Key Control 技術



※ KDF : Key Derivation Function, KEM : Key Encapsulation Mechanism, TTP : Trusted Third Party

この研究がもたらす未来

予測不可能な情報セキュリティ脅威に対して、安全安心なセキュリティ技術を提供することで、IOWNの実現に貢献します。

出展企業

日本電信電話株式会社、NTTコミュニケーションズ株式会社

背景

量子コンピュータの実用化などのコンピュータの進化により、さまざまな分野への応用が期待されている反面、従来の暗号が解読される脅威があります。これら脅威に対して、迅速かつ柔軟に暗号技術に対応させていく「クリプトアジリティ」を考慮することが重要です。

成果の概要

安全な暗号アルゴリズムや鍵共有プロトコルを迅速かつ柔軟に選択・組合せ可能なElastic Key Control技術を開発しました。本技術により、さまざまな情報セキュリティ脅威に対して、安全性を維持しながら暗号システムの効率的なマイグレーションを実現できます。

技術のポイント 1

ユーザーニーズに応じて、安全な暗号アルゴリズムを迅速かつ柔軟に選択・組み合わせ可能

技術のポイント 2

鍵管理機能をネットワークOSに依存しない実装にしたことでさまざまなオープントランスポート光伝送装置に対応

技術のポイント 3

光伝送装置をはじめ各種装置と鍵交換装置との容易な連携が可能

関連展示

N-N01, N-N05, N-E12

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com